

**製品名:** TFDP1 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab18820

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

## 抗原情報

遺伝子名	TFDP1
別名	TFDP1; DP1; Transcription factor Dp-1; DRTF1-polypeptide 1; DRTF1; E2F dimerization partner 1
遺伝子 ID	7027.0
SwissProt ID	Q14186
免疫原	抗血清はヒト DP-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 361-410

## 背景

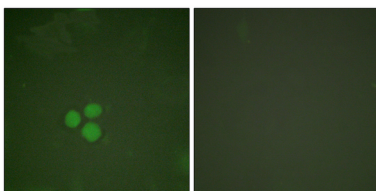
この遺伝子は、E2F タンパク質とヘテロ二量体を形成して DNA 結合活性を増強し、E2F 標的遺伝子からの転写を促進する転写因子

ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、この複合体の一部として機能し、G1期からS期への細胞周期の進行に関与する多数の遺伝子の転写活性を制御します。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子の擬似遺伝子は、1番染色体、15番染色体、およびX染色体上にあります。[RefSeq提供、2009年1月]、機能: E2F依存性転写を刺激できます。細胞周期調節またはDNA複製に関与する産物を持つ多数の遺伝子のプロモーター領域にあるE2認識部位、5'-TTTC[CG]CGC-3'を介して、E2Fファミリーのメンバーと協調的にDNAに結合します。DP2/E2F複合体は、G1期からS期への細胞周期の進行の制御に機能します。E2F-1/DP複合体は、細胞増殖とアポトーシスの両方を媒介すると考えられています。誘導: 分化中にダウンレギュレーションされます。その他: E2F/DPの転写活性化は、TBP、TFIIH、MDM2、CBPなどのいくつかの補因子によって媒介されます。PTM: S期におけるE2F-1結合サイクリンA-CDK2によるリン酸化は、E2Fを介したDNA結合および転写活性化を阻害します。類似性: E2F/DPファミリーに属します。サブユニット: E2F/DP転写因子複合体の構成要素です。E2Fファミリーのメンバーとヘテロ二量体を形成します。この複合体は、低リン酸化網膜芽細胞腫タンパク質RB1およびE2F転写活性化ドメインを阻害する関連タンパク質(RBL1およびRBL2)と相互作用することができます。この抑制には、ヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)のリクルートが関与しています。細胞周期中期G1期から後期G1期にかけて、RBファミリーのメンバーはリン酸化され、DRTF1/E2F複合体から分離してE2Fの転写を活性化します。ウイルス性腫瘍タンパク質、特にE1A、T抗原、HPV E7はRBタンパク質を隔離し、活性複合体を放出します。G0期におけるE2F6.com-1複合体の一部は、E2F6、MGA、MAX、TFDP1、CBX3、BAT8、EUHMTASE1、RING1、RNF2、MBLR、L3MBTL2、YAF2で構成されています。DREAM複合体(LINC複合体とも呼ばれる)の構成要素は、少なくともE2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、TFDP2で構成されています。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制する。S期にはLIN9、LIN37、LIN52、LIN54がMYBL2に結合するサブ複合体を形成することで解離する。組織特異性: 筋肉で最も高濃度に発現する。脳、胎盤、肝臓、腎臓にも発現する。肺と膵臓では低濃度に発現する。心臓では検出されない。

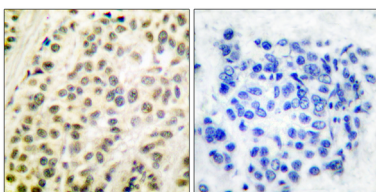
## 研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M DNA;TGF-ベータ;

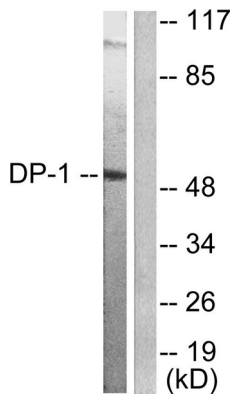
## 画像データ



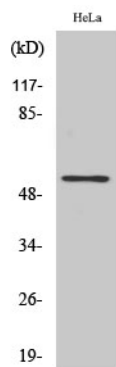
DP-1抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



DP-1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



DP-1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TFDP1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。